～赤城南麓の大豪族の威勢～

5 FIVE

前橋市

大室古墳群

～前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳～

明治11年に描かれた三古墳

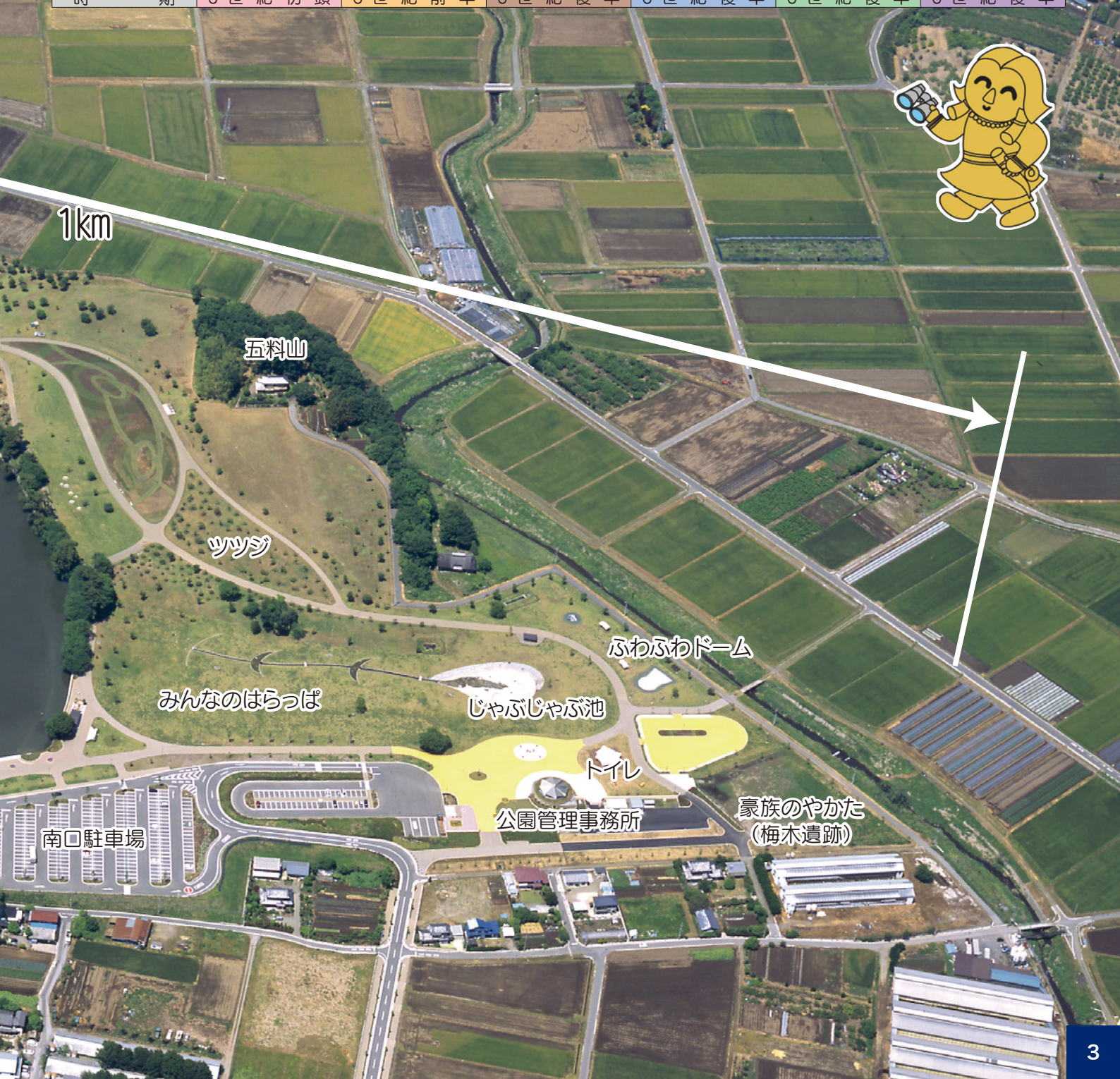
The Oomuro Park

～歴史遺産を未来へ～ すばらしい大室公園

赤城南麓の中央にある城南地区は、雄大な赤城山の眺めが素晴らしい自然に恵まれた所です。また、群馬県内でも遺跡の多い地区であり、特に４つの二子山古墳など史跡もたくさん残されています。大室公園は、こうした豊かな歴史・自然環境を生かした南北 500 m、東西 1000 mの本市を代表する広大な総合公園です。公園南西部の民家園には、江戸時代末期の赤城型民家や古墳時代の家も建てられ、昔の生活をしのぶことができるようになりました。その周りの国史跡前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳は整備が完了し、快適に見学することができるようになりました。前二子古墳と後二子古墳では、石室の中に入って見学ができます。中二子古墳の中堤や小二子古墳の墳丘には、出土した埴輪が復元されています。

◆古墳比較表

古墳名		前二子古墳	中二子古墳	後二子古墳	小二子古墳	内堀1号墳	内堀4号墳
墳丘の形式		前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	円墳
段築成		2段（一部地山）	2段（一部地山）	2段（一部地山）	2段（一部地山）	2段（一部地山）	2段（一部地山）
主軸		N－70°－E	N－89°－E	N－110°－E	N－131°－E	N－124°－E	N－4°－W
外部施設		周堀・外堤・外周溝	内堀・中堤・外堀	周堀	周堀	周堀	周堀
墳丘規模	墳丘長	94m	111m	85m	38m	35m	20m(墳丘径)
	前方部幅	65m	79m	60m	18m	18m	－
	後円部径	69m	66m	48m	30m	26m	－
	墳丘高さ	14m	15m	11m	5m	3m	－
兆域	全長	148m	170m	106m	44m	37m	27m
	幅	127m	138m	80m	39m	39m	－
	面積	約15,900㎡	約21,000㎡	約7,000㎡	約1,225㎡	約1,220㎡	約550㎡
葺石		上段墳丘下半分	上・下段墳丘と中堤	なし	なし	なし	なし
石室	形態	両袖形横穴式石室	横穴式石室？	両袖形横穴式石室	袖無形横穴式石室	両袖形横穴式石室	袖無形横穴式石室
	全長	13.8m	－	9.0m	6.0m	約5.8m	3.5m
	最大幅	2.0m	－	2.7m	1.8m	約2.5	1.4m
	最大高	1.8m	－	2.2m	1.8m	－	－
円筒埴輪		4条突帯	4条と5条突帯	2条と4条突帯	2条突帯	2条と3条突帯	2条突帯
時期		6世紀初頭	6世紀前半	6世紀後半	6世紀後半	6世紀後半	6世紀後半



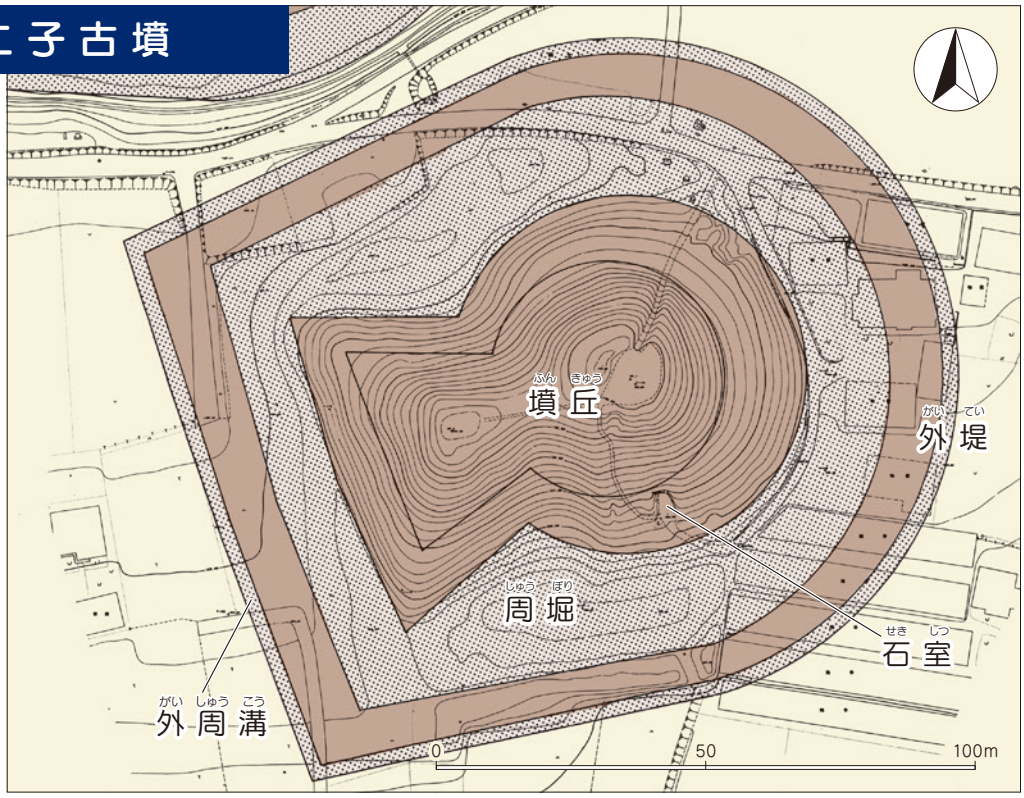
明治11年（1878）に石室が調査されました。狭くて長い石室は、まるで黄泉の国への入り口です。石室からは土器、装身具、鏡、金メッキされた馬の飾り金具などの副葬品が出土しました。詳しい調査記録から、副葬品の配置状態や日本全国から6000人にものぼる見学者があったことを知ることができます。さらに、明治13年（1880）に英国外交官アーネスト・サトウが調査に訪れました。

調査によって周堀のほかに外堤と外周溝があり上段墳丘に葺石があることがわかりました。従来から門や扉があり複雑な構造とされた横穴式石室は、床面に加工された凝灰岩が敷かれ、「べんがら」によって赤く塗られていることがわかりました。

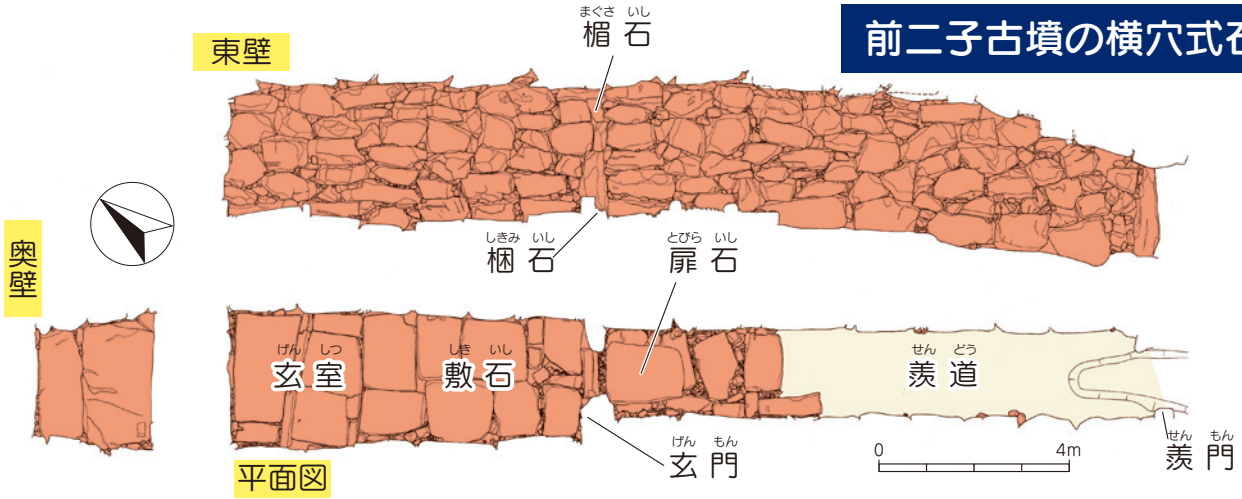
また、円筒埴輪は大室古墳群の中で最も大きなものです。さらに杖形埴輪（石見型埴輪）は遠く離れた奈良県のものと良く似ています。

出土遺物には従来「四神付飾土器」と呼ばれた装飾器台（須恵器小像付筒形器台）があります。朝鮮半島の南部のものと共通した小像が付けられています。

前二子古墳

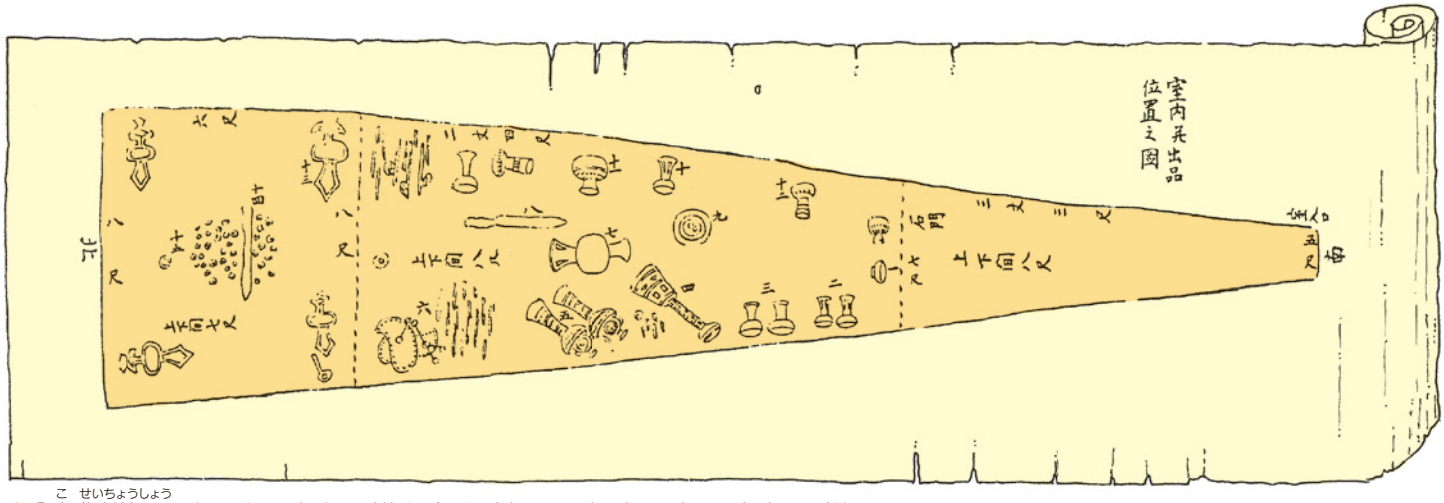


前二子古墳の横穴式石室



◆石室（奥から）

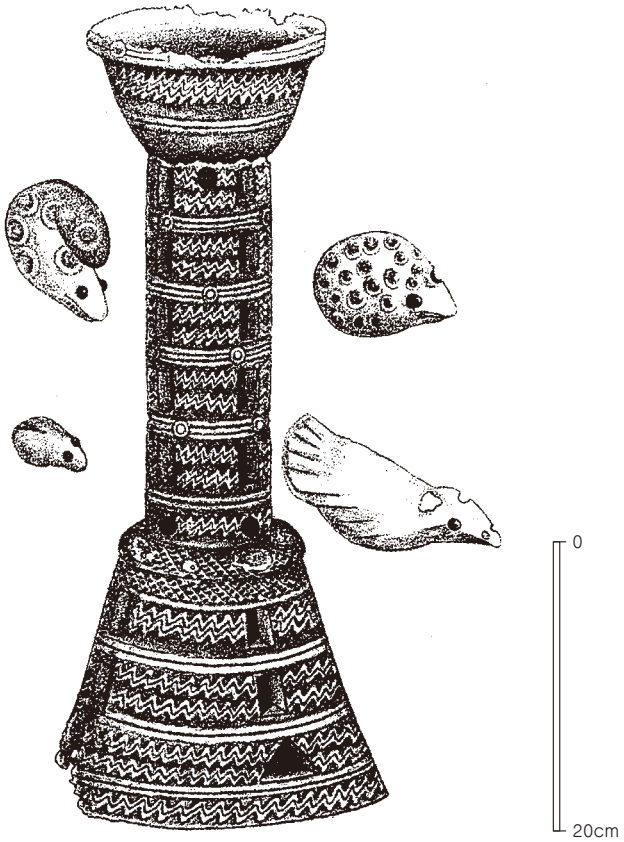
◆石室内に配置された制作品



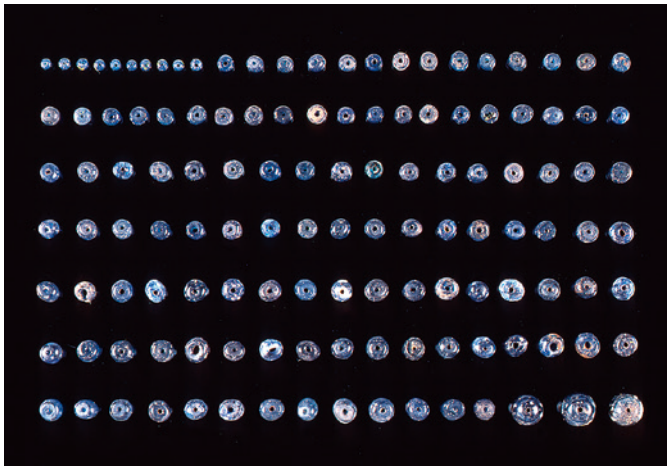
◆『古制徴証』（明治11年）に描かれた前二子古墳石室の内部の様子

◆石室に副葬された土器（左より土師器高杯4個・須恵器𤮔・直口壺・台付壺・装飾器台・高杯形器台と提瓶2組）

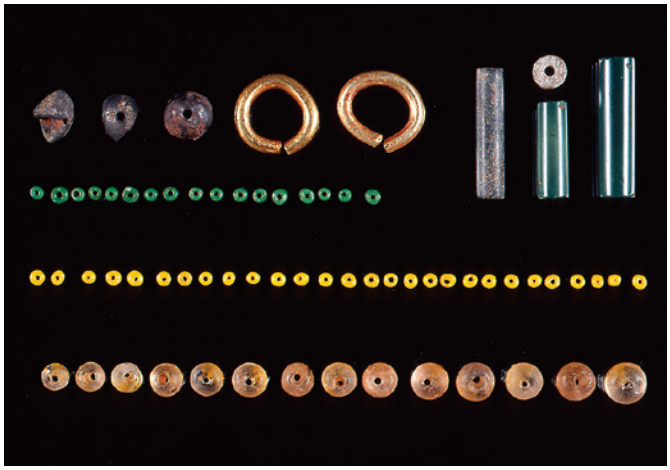
◆墳丘に立てられた埴輪（円筒埴輪と杖形埴輪（石見型埴輪））



◆須恵器装飾器台実測図
加藤竹斎によるスケッチ



◆石室に副葬された装身具（青色ガラス製丸玉）



◆石室に副葬された装身具
（左上：銀製空玉（うつろだま）・上中：金環・右上：管玉、臼玉・
中：緑色、黄色のガラス製小玉・下：水晶製丸玉）

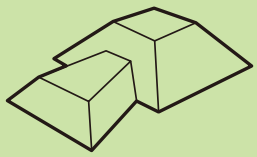
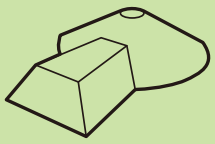
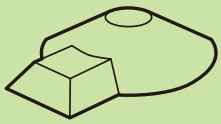
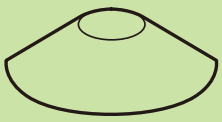
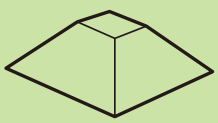
亀　鳥　蛇と蛙（かえる）　小像の剥落痕（はくらくこん）

◆須恵器装飾器台の小像（展開写真）

Q&Aコーナー

Q. どうして大室公園の古墳は二子山古墳っていうの？

A. 古墳にはいろいろな形をしたのがあります。円い形の『円墳』、正方形の『方墳』、帆立貝のような『帆立貝式古墳』さらに方形と円形をつなぎ合わせたような『前方後円墳』などがあります。前方後円墳を横から眺めたその姿がひょうたんの形から二子山という名がつきました。

前方後方墳（ぜんぽうこうほうふん）	前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）	帆立貝式古墳（ほたてがいしきこふん）	円墳（えんふん）	方墳（ほうふん）
				

～大豪族の栄華～　国指定史跡　中二子古墳

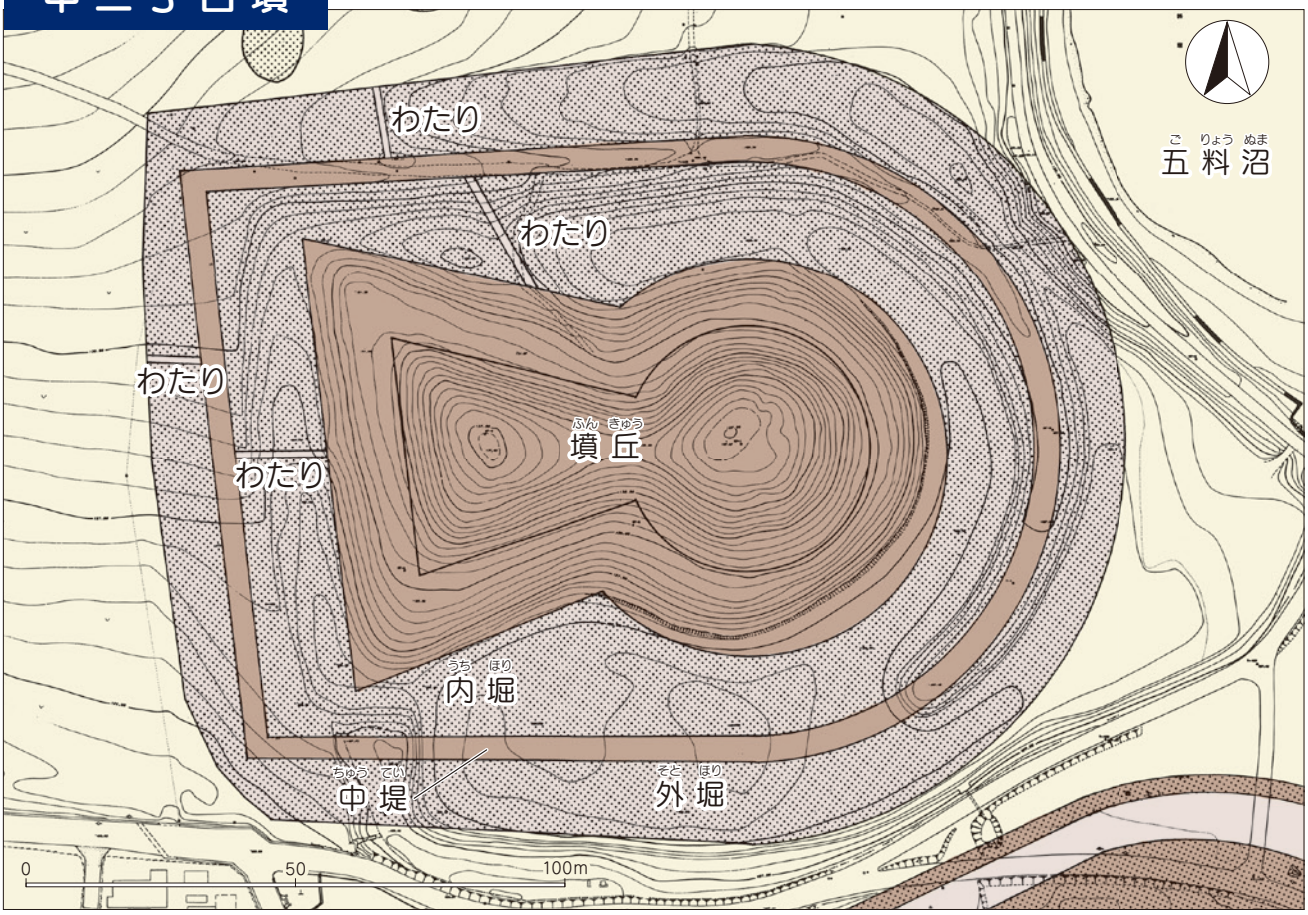
中二子古墳は、大室古墳群の中で最も大きく立派な古墳です。調査で、内堀や中堤、外堀が全周し、墳丘や中堤は葺石で覆われ、内堀に工事や儀式の時に通った「わたり」が存在することがわかりました。

かつて中堤は新堤沼を造るため、南側を大きく削りとられてしまったため、その部分を復元して中堤が一周している様子を再現しました。復元された中堤の上には、古墳を外敵から警護するために立てられた盾持人形埴輪と円筒埴輪が、密接して並べられた様子も復元されています。

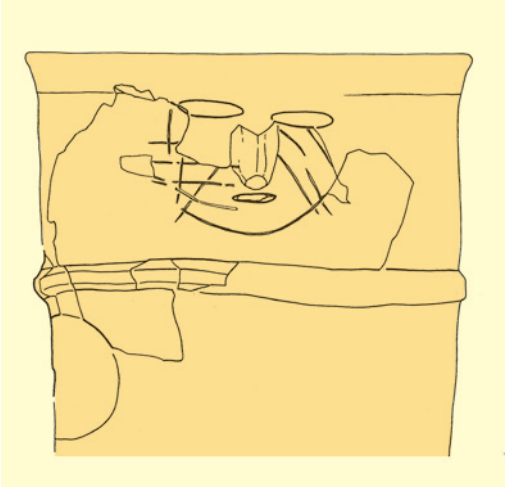
この古墳からは、たくさんの埴輪が出土しましたが、その中から、円筒埴輪に人の顔が小さく表現された珍しい埴輪がみつかりました。日本全国でも数例しかないものです。また、形象埴輪のほとんどと円筒埴輪の一部に、海綿骨針の化石と結晶片岩の砂粒が入ることから、藤岡市周辺で製作された埴輪が運ばれてきたと考えられます。

中二子古墳では、石室が見つかっていません。どのような石室に、どのような副葬品が納められているかという謎が残されています。そこで、この古墳は墳丘に立ち入らず、外から見学するようにしてあります。いつの日かその謎が解明される時がくるかもしれません。

中二子古墳



墳丘の断面図



◆線刻人面付円筒埴輪実測図

◆線刻人面の付いた円筒埴輪

◆墳丘や中堤に立てられた形象埴輪（左より靫・盾持人・線刻人面付円筒埴輪・盾持人3個・鞆）

◆中堤に再現された円筒埴輪と盾持人形埴輪

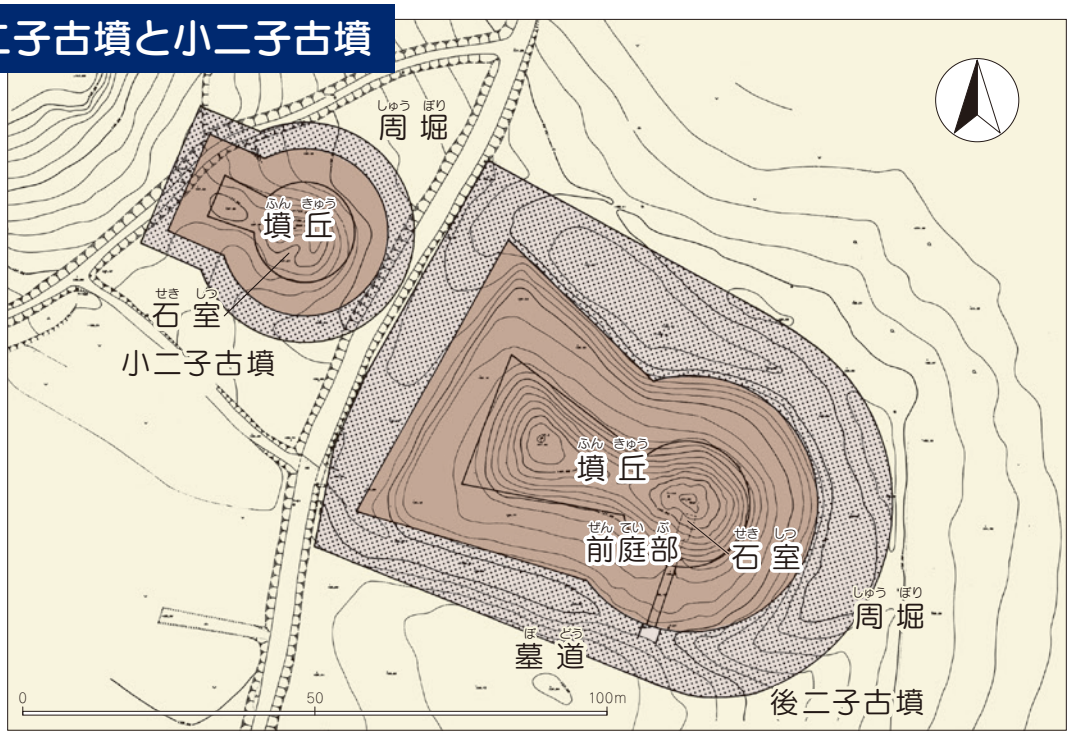
～巧みな石室造り～　国指定史跡　後二子古墳

後二子古墳の石室も前二子古墳と同様に明治11年（1878）に開けられました。調査によって、築造方法にいくつかの工夫がなされていることがわかりました。地中を掘って石室を低く造ることで墳丘の盛土を節約しています。また、石室が低いために地面を掘った通路（墓道）により出入りが行われました。「前庭部」には、儀式に使われた煮炊きの跡や土器がまとまって出土した様子が復元されています。

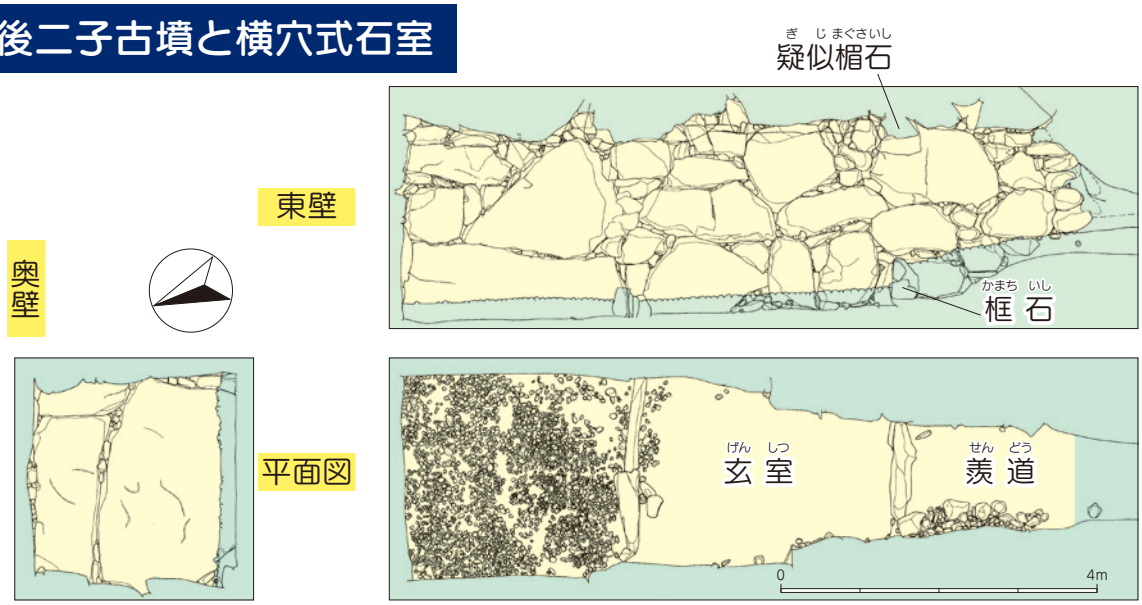
石室は南に開きますが、古墳は北側から見た方が大きく立派に見えます。円筒埴輪も、石室の前に復元されているように南側は小さな埴輪が間隔をあけて使われていましたが、北側には大きな埴輪が設置されていました。

また、円筒埴輪に「親子猿」や「犬」の小像が付けられていました。形象埴輪のうち馬形埴輪は、大阪府四天王寺宝物館にある「人が乗る馬形埴輪」と同じ制作者の埴輪であることがわかりました。

後二子古墳と小二子古墳



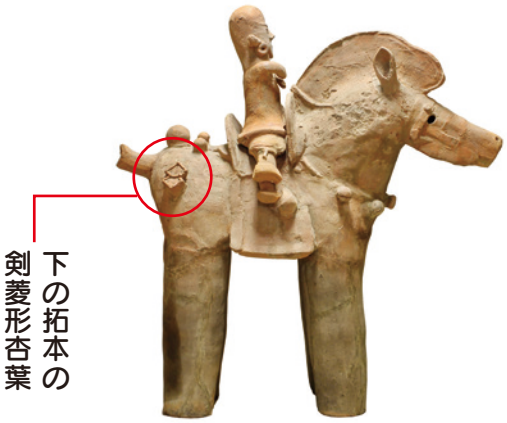
後二子古墳と横穴式石室



◆奥（玄室）からみた石室内部と墓道

◆親子猿の小像

◆小像の付いた円筒埴輪



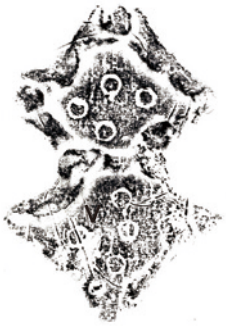
◆大阪府四天王寺宝物館の「人が乗る馬形埴輪」

◆前庭部で使用された土器（左より須恵器高杯・甕（はそう）・高杯・土師器杯・鉢（はち）・甕（かめ））

◆復元された後二子古墳

1 四天王寺埴輪馬の剣菱形杏葉（右側）

2 四天王寺埴輪馬の剣菱形杏葉（左側）



3 後二子古墳絵馬の剣菱形杏葉（左側）

◆埴輪馬の杏葉

～埴輪デパート～　国指定史跡　小二子古墳

小二子古墳は、全長38mと小規模ながらも、２段築成の前方後円墳です。後二子古墳と同時期に方向を揃えて造られていることから、後二子古墳とかかわりの深い人物の墳墓であると考えられます。

石室は、石を抜き去られたために破壊を受けていました。さいわい入り口部分は、壊されずに残されていて、石室のふさいだ状態がよくわかりました。石室の前からは、墓前祭祀に用いた土器や火を燃やした跡が見つかりました。こうした様子も復元されています。

小二子古墳からはたくさんの埴輪が発見されました。人物・馬・家・大刀などの形象埴輪や円筒埴輪は、大きく後円部と前方部の2つのグループに分けられ、設置されています。

◆発掘調査によって解明された石室の様子（南から）

◆復元された小二子古墳全景

大室古墳の教室「大室はにわ館」

◆大室はにわ館１階の展示（民家園土蔵）

◆大室はにわ館１階の展示（民家園土蔵）

◆大室はにわ館2階の展示（民家園土蔵）

民家園の土蔵を改装した「大室はにわ館」が平成26年（2014）11月１日にオープンしました。市民ボランティアの皆さんが制作した埴輪や土器を見学していただき、古墳への理解を深めていただきたいと思います。１階展示場には４頭の馬形埴輪や人面が付いた埴輪、王様の杖をかたどった石見型埴輪、前二子古墳の石室副葬品が飾ってあります。また、前二子、中二子、後二子、小二子古墳から出土した円筒埴輪も飾ってあります。２階には韓国と日本各地から出土した筒形器台復元品や大室公園内の発掘調査で出土した石器や土器も飾ってあります。また、東京福祉大学柴田研究室制作の教材「３Ｄ映像で見る大室古墳群」の放映や山王金冠塚古墳の金冠（複製品）、古墳衣装の体験コーナーもあります。

4二子古墳の他にも…
大室いろいろ

■内堀4号墳の馬形埴輪
～さまざまな馬具をつけた飾り馬～

大室公園の民家園の近くに復元されている内堀4号墳からは、立派な馬の埴輪が2個体出土しました。馬にはくつわや鞍などの飾りがつけられています。

内堀4号墳の馬形埴輪

梅木遺跡航空写真

■梅木遺跡 ～豪族の館～

梅木遺跡は大室公園の南東隅、前二子古墳から東に約500mのところにあります。この遺跡からは堀と柵列で区画された館跡が見つかりました。すぐ東側を流れる桂川の氾濫によって主要な部分は削られてしまいましたが、堀の一辺は外側で約85m、面積約7200㎡の正方形と推定され、前二子古墳に葬られた人物の館跡と考えられています。さらに東の多田山丘陵の調査で、本葬まで死体を安置しておいたと推定される竪穴が発見されました。これも前二子古墳の被葬者との関連が考えられています。

周辺ガイド 大室付近の古墳

■赤堀茶臼山古墳
～豪族の館を模した家形埴輪群～

大室公園の東の丘陵上に位置する全長62mの前方後円墳で5世紀中頃造られたと考えられています。昭和４年（1929）、帝室博物館（現東京国立博物館）の調査で後円部から家形埴輪などの埴輪類、埋葬施設から鏡や鉄器･玉類などが出土しています。

赤堀茶臼山古墳出土の家形埴輪群
（東京国立博物館所蔵）

唐三彩陶枕（群馬県埋蔵文化財調査センター所蔵）

■多田山12号墳 ～唐三彩出土～

大室公園の東にある多田山は、前橋市と伊勢崎市の境に位置しています。平成9年（1997）から13年（2001）にかけて、21基の古墳が調査されました。12号墳から出土した唐三彩の陶枕は、全国的にも珍しい貴重な遺物です。これは現在、群馬県埋蔵文化財調査センターに展示されています。なお、複製品が伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館に展示されてます。

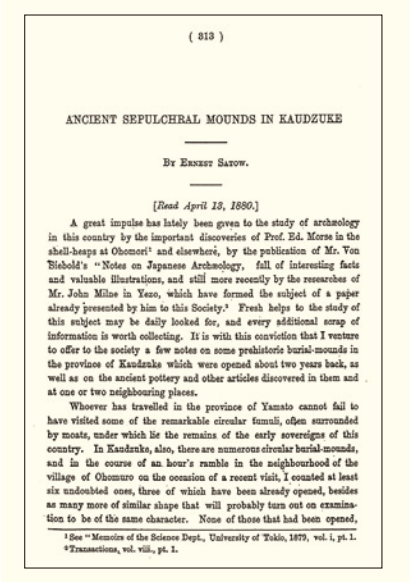
明治11年・石室開口

明治11年(1878)３月24日前二子古墳の石室開口、翌３月25日～４月１日綿密な発掘調査を実施。明治11年(1878)４月から明治12年(1879)６月まで前二子古墳石室副葬品が公開され全国から5179名の見学者。明治13年(1880)３月、英国外交官アーネスト・サトウが前二子古墳調査の目的で前橋を訪れました。

県　内		県　外	
前橋	160	埼玉県	319
高崎	16	栃木県	162
群馬郡	262	茨城県	5
勢多郡	1,836	千葉県	2
片岡郡	0	神奈川県	7
那波郡	282	東京都	17
碓氷郡	32	山梨県	2
甘楽郡	40	長野県	14
多胡郡	14	新潟県	13
緑埜郡	1	福島県	2
佐位郡	1,081	石川県	3
利根郡	41	愛知県	1
吾妻郡	13	滋賀県	1
山田郡	355	小　計	548
新田郡	272	合　計	5,179名
邑楽郡	47		
不　明	179		
小　計	4,631名		

◆地域別前二子古墳古器物見学者数一覧
（明治11年4月～12年6月）

◆大室に訪れた英国外交官
アーネスト・サトウ(1843-1929)



(313)

ANCIENT SEPULCHRAL MOUNDS IN KAUDZUKE

By Ernest Satow.

[Read April 13, 1880.]

A great impulse has lately been given to the study of archæology in this country by the important discoveries of Prof. Ed. Morse in the shell-heaps at Obomori[1] and elsewhere, by the publication of Mr. Von Siebold's "Notes on Japanese Archæology," full of interesting facts and valuable illustrations, and still more recently by the researches of Mr. John Milne in Yezo, which have formed the subject of a paper already presented by him to this Society.[2] Fresh helps to the study of this subject may be daily looked for, and every additional scrap of information is worth collecting. It is with this conviction that I venture to offer to the society a few notes on some prehistoric burial-mounds in the province of Kaudzuke which were opened about two years back, as well as on the ancient pottery and other articles discovered in them and at one or two neighbouring places.

Whoever has travelled in the province of Yamato cannot fail to have visited some of the remarkable circular tumuli, often surrounded by moats, under which lie the remains of the early sovereigns of this country. In Kaudzuke, also, there are numerous circular burial-mounds, and in the course of an hour's ramble in the neighbourhood of the village of Obomuro on the occasion of a recent visit, I counted at least six undoubted ones, three of which have been already opened, besides as many more of similar shape that will probably turn out on examination to be of the same character. None of those that had been opened,

[1] See "Memoirs of the Science Dept., University of Tokio, 1879, vol. i, pt. 1.
[2] Transactions, vol. viii., pt. 1.

◆アーネスト・サトウ著「上野地方の古墳群」
『日本アジア協会紀要』第8巻第3号1880

大室古墳の語り部による古墳解説案内

（おおむろ つか）

大室古墳群市民ボランティアにより大室古墳群をやさしく解説しながらご案内いたします。

◆定例案内
日時　５月～11月各月１回土曜日を予定
（広報まえばしに掲載します）
受付　9:30～11:00（１名でも参加可能）
所要時間：１～２時間

◆その他
グループや団体などの解説は随時予約を受付ています。
文化財保護課（027-280-6511）まで電話で。

案内図

交通のごあんない

◆北関東自動車道 波志江スマートI.Cから約3.6km(車で10分)

◆北関東自動車道 伊勢崎I.Cから約5km(車で10分)

◆上毛電気鉄道 大胡駅からタクシーで約10分

◆JR両毛線 伊勢崎駅からタクシーで約20分

前橋市　大室古墳群　― 前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳 ―

編　　集　前橋市教育委員会事務局文化財保護課
〒371-0853　群馬県前橋市総社町三丁目11-4
TEL 027-280-6511　FAX 027-251-1700
発　　行　前橋市教育委員会
発 行 日　2022年12月23日　第22刷